



2006国会請願

緊迫した状況下、犠牲者を先頭に

五月十六日、国賠法制定の国会請願の行動は全国から昨年をこえる一四二名の代表と署名三万二千二百七十九筆を持つて衆参両院の各議員を訪問しました。また、治安維持法犠牲者田熊真澄(九十七歳)、松崎濱子(九十三歳)、市吉澄枝(八十二歳)と国賠同盟代表は、十五日には杉浦正健法務大臣、十七日には角田義一参議院副議長とそれぞれ面会して同様の要請を行いました。角田参議院副議長は、「実は私の父も犠牲者。あなたがたの請願の趣旨には賛成だ。戦後六〇年たっているが今からでも遅くない、国家としてもきちんとけじめをつけないと、中国や朝鮮などと正常な関係は生まれない」とのべました。

わたしたちが国会請願行動をおこなっている最中に医療改悪法案が衆議院で強行採決され、教育基本法の改悪、共謀罪新設法案の強行採決をもくろむなど急速に危険な状況が展開していました。このことは、憲法九条の改悪と国民を弾圧する共謀罪法、教育基本法の改悪で日本を海外で戦争する国にするためです。

昨年の同盟の三十二回大会以降、会員拡大でも四六五人増と七カ月間連続前進しています。国会請願の成功と会員拡大での連続前進をバネに一万六千人会員突破を早期に実現しましょう。



No.384

編集発行人 中西三洋
治安維持法犠牲者
国家賠償要求同盟

〒113-0034 東京都
文京区湯島 2-4-4
平和と労働センター・全労連会館
Eメール chian@plum.plala.or.jp
電話 03(5842)6461
FAX 03(5842)6462
振替 00110-6-97793
定価 50円

主 な 記 事

- 三日間の国会請願行動を追う 2
- 国会請願参加者の声 3
- 顕彰碑 / 福島県・民主先駆の碑 4
- 時の焦点 / 血税三兆円 5
- 抵抗の群像 / 苅田アサノさんの生涯 5
- 同盟歌壇 / 選者・碓田のぼる 6
- 書棚 / 『昭和天皇』ハーバート・ピックス著 7

三十一万余の署名をもって国会へ 全国から代表一四二名が請願行動

3日間の国会行動を追う

杉浦法務大臣に面会

五月十五日(月)朝、同盟代表団は東京・霞ヶ関の法務省を訪れ、杉浦正健法務大臣と面会。

同盟からは治安維持法犠牲者である田熊真澄さん(97歳)、松崎濱子さん(93歳)、市吉澄枝さん(82歳)の三人をはじめ、神戸会長代理、高嶋副会長、針谷事務局長、富矢「不屈」編集部長、斉藤久枝国際部長、日本共産党の仁比聡平参院議員、「しんぶん赤旗」記者が参加しました。

国会内では、ちようど治安維持法の現代版ともいわれる「共謀罪」の強行がねらわれるなど緊白した状態が続いており、法務大臣も緊張した面持ちで応対。

同盟代表は、はじめに国賠法制定への請願趣旨をのべたあと、犠牲者がそれぞれ発言、みずからの



杉浦法務大臣と会う治安維持法犠牲者(右側)と同盟代表団

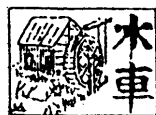
弾圧体験を話されました。松崎さんは「18歳の時地下鉄の争議に参加して特高警察に逮捕された。取調室では後ろ手に縛られ、下半身裸にされ靴で蹴られたりのテロが加えられた。私が死んだら拷問などなかったことにされてしまう。このままではあの世に行っても一緒に活動した仲間にも報告すること

も出来ない」と思いを訴えました。市吉さんは「友人と勉強をしていただけで捕まった。空襲で命からがら避難できたが手錠ははめたま。八月の終戦で千葉刑務所から出されたが何の説明もない」と逮捕の不当性を述べました。

最後に田熊さんは、「一九二九年、四・一六の弾圧で検挙されたが、再び戦前のような政治に戻ることは反対。私たちの苦い経験は二度とくりかえしてはならない。国は謝罪と賠償をすべきである」と主張されました。すでに予定の15分間は過ぎていましたが、杉浦法務大臣は「この問題は国会で審議すべきことです。私は小学校五年生の時終戦でしたが、ひどい戦争でした。お話は承りました」と述べられ、同盟代表は大臣室を後にしました。

全国の代表が国会請願

十六日(火)、国会請願行動の日です。朝11時、衆議院第一議員会館に全国から各県代表が三九都道府県、一四二名集まりました。冒頭、松崎さん、田熊さん(へ)



通信表で「愛国心」評価を実施している学校が問題になっています。もし教育基本法改悪が

強行されたら、これが強制されます▼相対評価を強いられて、教師は心ならずも子どもたちの日常の言動をみて「評価」せざるを得ません▼「国歌を大きな声で歌った子」は「A」? 「さざれ石の巖となりて」はおかしい」と批判した子は「C」? 「日本のやつた戦争は間違っていた」という子は? 戦争に反対した人がいたことを知って感動を綴った子は? ▼子どもたちの内心に踏み込んで、こんな教育目標「の評価をするなど、決してできないし、やってはなりません▼まさに、教育勅語や治安維持法の教室への侵入です。教室から教師が特高に連行された戦前へ逆もどります▼教育基本法改悪ゆるさぬ国民的なたたかい、まさに正念場を迎えています。

(ト)



全国からつどう請願代表と署名簿の山

() が挨拶に立ち、共謀罪など再び戦前の治安維持法時代を思わせる状況を指摘しながら、共に頑張ろうと励まされました。

ついで同盟本部針谷事務局長が署名到達状況として、国家賠償法制定を求める請願署名は、この日の集計で三万二千九筆の署名が寄せられたと報告されました。

午後から各県代表は署名簿を持って地元各党議員室を訪ね、紹介議員になっていただけようという要請訪問をおこないました。

ちょうど衆議院本会議が開かれたため、議員との面会ができませんでした。参議院では直接議員に訴えることができたところもありました。それぞれ面会のなかで、治安維持法についての説明や弾圧の実態を訴えましたが、自民党、公明党は一部をのぞき署名簿を受けず、面会も拒否する議員室もありました。

午後3時、再び全体集会を開き、要請行動の報告が行われました。

冒頭、日本共産党の井上哲士参議院議員が国会報告をおこない「国会では教育基本法はじめ共謀罪など重要法案が審議されている」として、アメリカの例をあげて「貧しい若者が軍隊に勧誘されており、日本の格差社会が戦争への道にもつながっている」と述べ、悪法の廃案をめざし頑張ると決意を表明、参加者を激励しました。

参加者発言では、上京前に地元議員事務所につながる必要が強調されました。また大阪から参加した円山はるなさん(24歳)は「若い参加者や、初めて参加された方も多く見られました。」

角田参院副議長が激励

十七日(水)午後1時半、午前中の同盟三役会議を終えて参議院に出向き、角田義一副議長と面会。これには治安維持法犠牲者市吉澄枝さんはじめ神戸会長代理、高嶋、近江谷、近藤、柳河瀬、溝淵各副会長、針谷事務局長、富矢事務局次長、田中常任理事ら一〇名が参加、共産党吉川春子参院議員が同席されました。

冒頭、角田副議長が挨拶、「私の父は戦前、治安維持法犠牲者の弁護を続け、自分も逮捕され、弁護士資格を剥奪され獄中に足かけ三年いた。今私は69歳、無所属として副議長席にいるが、父から教えられたことは私の揺るがぬ信念になっている」と話されました。

同盟から犠牲者として市吉澄子さんが体験を述べられ、理由なしに投獄された不当性を指摘。

これを受けて角田副議長は「父がよく言っていたが、戦争をするには反対勢力を根絶やしにしないとできないのだ。しかし今は主権在民の時代。最近では戦争を知ら



角田参院副議長に要請する同盟代表団

ない世代が政治をしているが、非常に危険な風潮がある。しかし今日では昔の中国や韓国ではない。むしろ日本国民が現状をどう見るか、治安維持法という法律を国がどう総括するかが問われている。そのためにも皆さん、とくに若い人たちの奮闘に期待したい。

今国会で審議されている共謀罪は悪法であり認められない。皆さんの要請は私からも民主党の仲間に申し上げていきたい」と発言。最後に「皆さん方の趣旨には全面的に賛成だ」として同盟代表団を激励されました。

国会請願 参加者の声

生々しい被害の実態聞く

北海道 横山博子

おりしも国会では共謀罪の審議がおこなわれておりました。治安維持法の犠牲者への国の謝罪と賠償を求める請願行動は、共謀罪を許してはならない、再び暗黒の時代を繰り返してはならないという思いが請願行動に参加した人々に満ち溢れていました。

「一日も早く国家賠償法の制定を」と地元国会議員に署名を届け、紹介議員の要請をおこないました。が、「紹介議員にはならない」「議員秘書をとおして」と断る議員もあり、残念に思いました。高齢の犠牲者の方から生々しい被害の実態が話されて、この運動の火を絶やしてはいけなさと決意を新たにしました。

一筆一筆の重みを実感

山形 荒尾大介

今回初めて国会請願に参加しま

した。国賠同盟の活動についてはあまりよく理解できていないところもあり、国会請願自体どのようにして行うのかイメージも余りつかめないまま山形県本部の島津さんとともに行動しました。

あいにくの雨の中、議員会館を一万一千筆余りの署名を手にしながら行き来するのは少し大変ではありましたが、移動を繰り返すなかでその一筆一筆の重みを実感し（雨で紙が濡れた重みもあったでしょうが）、決して無駄には出来ない、させないという思いが増した一日でした。

国会周辺は極度に緊迫

埼玉 加納幸子

一年間の運動の集大成としての国会請願はいつも緊張します。

特にいまは、医療制度大改悪、共謀罪、国民投票法案、教育基本法と軒なみ悪法強行の策動と国民の反対運動で、国会周辺は極度に緊迫していました。

こんな状況にありながら、埼玉の署名が未達成だったことは残念でした。

しかし、各種集会での訴え、他団体への要請、会員から託された署名は貴重なものでした。感激し新しい意欲をかきたてられました。

衆院本会議が開かれ、多くの議員が不在、秘書に改めて要請文を読んで依頼しました。自民党でも署名を一応うけとってもらえたところがあつたのは地元の人たちの署名の強みと痛感しました。

人生初めての国会請願

大阪 円山はるな

国会について、出発集会がありました。お年を召された方が大半でしたが、とてもエネルギーがシチュで、長年不屈に闘ってきた強さを感じました。

昼食後、人生初めての国会請願。先輩の同盟の方と一緒に議員事務所を訪問しました。やってみるまでは、国会請願というのは議員さんに怒りをぶつける場だと思い込んでいたのですが、違いました。本会議中だったので、秘書に署名を渡し主旨を説明して、紹介議員になつてもらうようお願いする。

先輩の方は、「。。。先生に頼るしありません。ぜひよろしく願います。」と、とてもていねいで、すごいなあと思いました。私は、改憲派の秘書をにらみつけたくなりましたが、先輩に見習つてやめました。

青年代表を送る活動を

福岡 濱地龍男

鹿児島、熊本の代表と五人でチームを組んで、衆院第一議員会館の自民党一名、民主党四名、共産党一名、社民党一名、無所属五名の計十二名の衆院議員を訪問。いずれも議会で秘書の方との面会でしたが、事前に詳細な陳情要請文を届けていたので全員が署名綴りを受けとり議員に渡すことを約束してくれました。十九日には、民主党の北橋健二、松本竜、日本共産党の赤嶺政賢の各議員から紹介議員になったとの連絡が入りました。

大阪からは、二十四歳の女性の代表が参加しましたが、福岡でも、いまから青年代表をたくさん送る活動をと反省しています。

顕彰碑

||||| 感動

いわき市常磐湯の岳に立つ二つの碑

「民主先駆の碑」「民主いしずえの碑」

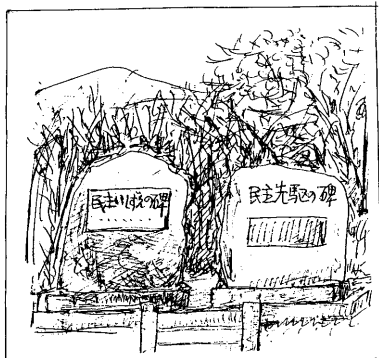
福島県いわき市は浜の町であり、戦前から戦後にかけては階級闘争の激しい炭鉱の町でもあった。

そのいわき市常磐湯の岳山の中に、郷土の生んだ戦前の革命運動家の一群を顕彰する「民主先駆の碑」が一九九二年建立された。

碑面には、歴史研究家呑川泰司さんが起草した、山代吉宗を先頭に、大井川基司、中野大次郎、波立一、松島清美、吉田寛、その他多くの有志者達が、かつて、日本の国家権力による民衆抑圧と侵略戦争の時代に、風雪をついて、その不条

家であり、戦後の闘いの礎を築いた。「先駆の碑」に隣接して、「民主いしずえの碑」が〇三年一〇月に建立された。いわき地区の戦後の平和と民主主義の運動に参加し、志半ばにしてたおれた多くの同志の人々の闘いの足跡を讃える記念の「いしづみ」として建立。碑名は中野徳さんが揮毫した。

スケッチは、元同盟いわき支部長渡辺藤一さん



スケッチは、元同盟いわき支部長渡辺藤一さん

（いわき支部菅原記）

かつて東京で三億円強盗事件が起こり、白昼公然単独での鮮かともいえる手口に国民は驚かされたが、四〇年後の今日その一万倍の三兆円が国民の関心事となつていきます。

今日最大の外交問題の一つ、「在日米軍再編」に伴う費用の日本側負担額。三兆円は日本数字で二字、算用数字で十三桁で数えられますが、現物の最高紙幣の一万円札を積上げますと、地面から三万メートル、富士山の高さの八倍

時の焦点

以上にも達します。国民のふところ勘定からすると、総人口一億二千万人のだれもが二万五千円、四人家族で十万円

の負担増となります。

この三兆円の皮切りが、在沖米海兵隊八千名のグアム移動費用、日本側は約六〇％の七、一〇〇億円出せといわれています。当初は約一兆円で全額日本側負担でしたが、米兵がグアム島で遊ぶボウリング場やダンスホールまで造れとはなにごと！という国民の憤激

血税 3兆円

—前代未聞の売国心—

で負担率を引き下げたものの、米側は狡猾にも、一方的に移動費用は一兆二千億かかると上方修正してきたのです。在沖米海兵隊の定数は一万八千名、指揮管理系統の八千名移動したとしても、屈強な実戦主力の一万名の殴りこみ部隊は依然残留することになります。

最近日本共産党の笠井亮衆院議員の国会質疑で明かになったことですが、「ロードマップ」とよばれる米軍再編についての最終報告では、全国の在日米軍基地の七四・六％を占める沖縄の現状が、再編後七三・八％とわずか〇・八％縮減されるにすぎません。

懸案の普天間基地の名護移設も滑走路二本に増強されたうえ、一兆円の移設費が全額日本負担。東京・横田基地で日米共同開発配備されるミサイル防衛システムも一兆円かかるといわれます。

「財政がきびしいと言いつつ迷惑な隣人の引っ越しに、わざわざお金を出してあげる人がいるでしょうが？」

この声は天の声です。

(元)

抵抗の群像

知性は迫害をこえて 荻田アサノさんの生涯



同盟岡山県本部女性部編
『変革を求めた女達』より

一九〇五年(明38)六月二十一日、岡山県津山市荻田善栄・幾の次女として生まれた荻田アサノさんは、生家が地主で酒造業を営む屈指の資産家でした。二年入学した津山高女では成績もよく、良家のお嬢さんとしてみんなの憧れの的でありました。

上京して日本女子大國文科に進み、外国文学、特にロシア文学に魅せられ、多くの学友やリーダー

山原千鶴に愛されていました。女子大卒業後、早稲田大学露文科聴講生となり、生家で見た小作人の苦しい生活などとともに、学友たちの小作争議やストライキ応援などを見て、女性問題研究会、社会科学研究会に入り、文献を読むかで三一年日本共産党に入党しま

した。死刑法となつた治安維持法下の決意でした。アサノさんの活動は質素なブラウス・スカート姿で非公然的な連絡や活動、無産者診療所、保育所、授産所などにもまわり、時には文化人と呼ばれた人々にも党を訴えていました。大柄で均整のとれ、きわだつて美しいアサノさんは人々から「白いバラの君」と呼ばれていました。

しかし、党内にいたスパイの手引きで、一九三三年(昭7)アサノさんは検挙されました。厳しい取調べや拷問も加えられましたが、それにも耐え、そのために守られた人が何人もおり、獄中では多くの同志たちを励ましていました。一九三五年十二月、アサノさんの身辺の人たちの努力で保釈出

獄、傷心のアサノさんは、津山に帰り、特高の監視下での生活に入りました。外出はもちろん、ほとんどの自由を奪われた暮らしでした。この時期、アサノさんはロシア文学の翻訳、詩作などで日々を過ごします。知人宅を訪問すると、特高がその知人の家族やその思想まで問いつめるというありさまでした。

三七年(昭12)、再び上京し東洋経済新報社に入社。あいかわらず特高警察の監視下にあり、そのなかでロシア文献の翻訳、婦人経済懇談会の世話係りなどの仕事をしていました。この会には、市川房枝、高良とみ、井上房枝、帯刀貞代、川崎なつ、勝目テル、山高しげりなど、後に各分野で婦人運動の担い手となつた人々が集まっていました。

一九四三年、アサノさんの身辺には特高だけでなく憲兵までも監視に加わり、「帝都」からの退去が求められ、津山に引き上げます。津山では就職も特高に妨害され、畑づくりをしながら家族と暮らすのでした。戦時下の四四年夏には、

勤労働員により津山の少女たち六〇人あまりの引率者として県南岡山の軍服製造工場で働きました。が、三カ月の期間を延長するよう要請されると、これを拒否して全員帰津。当時の要請拒否は「世の中は星(陸軍)・淀(海軍)・金に顔(民間で流布した諺)」に否ということであり、危険な行動でした。

帰津後は、兄経高の会社に入り経理を担当、敗戦を迎えます。

一九四五年(昭20)十二月、日本共産党岡山地方委員会が結成され、アサノさんも委員として活躍、民主主義擁護同盟、国鉄、全通など労働組合結成など、労働者の権利、事件など疲れを知らぬ活動に入りました。知友宮本百合子が全国の婦人に民主的な婦人の結集をよびかけていた頃でした。岡山でも豊田文子、永瀬清子、杉山千代らと婦人民主クラブを結成し、四九年には衆議院議員に当選。県下最初の共産党議員となつての活躍です。五三年、経済学者堀江邑一氏と結婚、五四年には党婦人部長を務めます。七三年八月五日永眠、鎌倉東慶寺に葬られています。

同盟短歌

碓田のぼる選

核廃絶と反戦平和は兵にされ生きて還りし吾が命なり

神奈川県 若林 義文

傘寿より住みし鎌倉ウグイスの鳴くに声して吾れも心えん

〔評〕「兵にされ」は、「強制的に」といった語感を含み、結句と呼応する。後歌、住みなれて来た鎌倉での自然へのいとしみ。

岐阜県 和田 昌三

小林多喜二の着たる丹前もありこの部屋に潜みて、「オルグ」書きつぎしという

治維法の犠牲者伊藤千代子の碑桜まつ盛りの下に建ち居り

〔評〕二人の先駆者によせる歌。前歌は神奈川県七沢温泉の福元館。後歌は、長野県の諏訪湖のほとりに建つ墓碑である。

静岡県 江川 佐一

がつちりと丈の短かき熊笹は白樺林に今朝の陽を浴ぶ

要求をサッカーボールに似せて書きメーデー会場白衣まぶしき

〔評〕一首目は自然詠であるが熊笹に托した作者の心境表現。二首目は、要求をかけた白衣の人たちをたのもしと見ている。

新潟県 加茂川ハル子

「延命措置はどうしますか」と医師問いぬ八十七歳義兄入院の日に三月前スパーに逢いて立話したる友の名訃報欄にあり

〔評〕医者の方に答えていないところに、肉親の複雑な心境をうかがわせる。後歌は、とても信じられないといった思いを歌う。

東京都 山崎 元

蓄えしはずの「米百俵」いまいずこいくさに貢ぐ「三兆」がそれか

〔評〕米海兵隊のグアム移転費を、血税で払おうとする態度を、「米百俵」の話で批判をしている。

書棚

ハーバート・ビックス著 岡部牧夫・川島高峰訳

『昭和天皇』 上・下巻 吉田 裕二 監修

講談社 各巻二二〇〇円

この本は天皇裕仁の生い立ちから死去するまでを膨大な資料に目を通し、分析した優れたドキュメントであり、近代日本の歴史書でもある。

著者は「本書では、さまざまな問題を取り上げた。彼はどのような人物なのか。なぜ、またいかに日本の政治と軍事に積極的に指導力を発揮するよう人念に教育されたのか。一九二〇年代後半における政党内閣の凋落に、天皇と「宮中グループ」はどのような役割を果たしたのか。政治的・軍事的決断を迫られた、一九三〇年代初頭の満州侵略から一九四五年八月の帝国軍隊の降伏まで、そして降伏直後の段階にどのように行動したのか。天皇と日本国民との関係はなぜ、どのように時代とともに変わったのか。そして何よりも、昭和天皇独自の過去を新たに批判的に解釈することが、現代日本が抱え

る諸問題への我々の理解と対応に役立つのはどうしてなのか、などである」また「私は、できるだけ状況を再現したこの伝記が、敗北に終わった戦争をめぐる日本での議論を前進させることを願っている。さらに、本書が政策決定のプロセスに焦点を当て、日米両政府が昭和天皇を欺瞞の構造の中に埋め込んだその方法を述べたことによって、現代日本の手づまり状態の理解が深まることも望んでいる」と述べている。

父、大正天皇が病弱であつたため、若くして摂政についた裕仁は決してむやみに判を押すのではなく、「十分に納得したうえで」裁可する。天皇になった後も彼の基本的な手法であつたという、したがって満州事変から敗戦までの侵略戦争に大元帥としての昭和天皇の果たした役割および戦争犯罪の責任は決定的といえよう。(倉)

国際部
報告

韓国 平和・連帯の旅

10月12日より16日まで5日間

申し込み受け付け中

国賠同盟本部はじめての韓国訪問の企画です。「国家保安法廃止市民の集い」「韓国挺身隊対策協議会」との懇談や独立記念館、ナムの家、西大門刑務所歴史館、尹東柱詩碑等の訪問で戦前、戦中の日本の侵略の実相に触れ、「再び戦争と暗黒政治を許さない」決意を語り合ひましょう。

オブション・ツアーには軍事境界線の板門店、「冬のソナタ」の春川、宮廷女官「チャングムの誓い」ロケ地などがあります。出発は成田、または関西空港から。最寄りの空港からの出発も相談に応じます。現在の申し込み状況は15名を越えました。各都道府県本部からの参加をお待ちしています。(9月中旬申込締切り)

「韓国挺対協」と協力して活動している日本の「私たちの戦争と平和資料館」(東京・新宿区)では

「置き去りにされた朝鮮人「慰安婦」展(4月29日～11月12日)を開催しています。今回の旅に参加予定の東京都女性部・安藤郁子さんからその感想が寄せられました。

「私は初日に行つて館長の西野瑠美子さんにお会いし、お話をうかがつてきました。貧しい朝鮮の少女たちが良い仕事があるとだまされてアジア各地に連れて行かれ、日本兵の性奴隷にされました。日本は敗戦時女性たちを連行地に置き去りにしました。かの女たちにとつていまだ終わらない戦争。ハルモニ達は今ナナム(わかし合い)の家で暮らしています」

大阪本部事務局長・塩田一行さんからのニュース。

「大阪では七月一日の理事会でツアー参加者も含め「日韓・近・現代史」に関する学習会を計画しています。講師は日本のコリア協

会大阪理事長・河野律氏です。しつかり事前学習をして、同盟の活動に役立つ韓国平和・連帯の旅を実現したいと思っています」

(旅の問合せ・お申し込みは富士国際旅行社(〇三―三三五七―三七七、担当・小野寺・都築)

「現代」誌11号を読んで

「治安維持法と現代」を創刊以來、愛読。県本部理事会で重要論文を教材に学習しています。

06春季号の特集「横浜事件」の橋本敦、橋本進両氏の論文は一気に読みました。「話題を読む」もさんの購読をおすすめします。

(福岡・橋本幸夫)

横浜事件の再審で横浜地裁は「無罪」ではなく「免訴」判決を下した。

山梨県の石川さだの(故人)の治安維持法事件も一九四二年、軍法会議で「有罪」となり、甲府市役所を解雇されたが、今日にいたるも謝罪どころか、解雇したことにも認めない。横浜事件をデッチあげた国家権力の責任は、きびしく

追及されなければならない。

(山梨・広嶋喜栄司)

事務局日誌

5月1日 メーデー参加 署名
5月3日 5・3憲法集会
5月3日 栃木県本部訪問
5月8日 国際民主法律家協会理事会

5月15日 杉浦法務大臣に面会
5月16日 国会請願行動
5月16日 国際部会
5月17日 中央三役会議
5月17日 角田参院副議長に面会
5月18日 「不屈」編集会議
5月18日～5月22日 国際部中国訪問視察
5月19日 葛飾ピラ弾圧事件第十
5月30日 「不屈」編集会議
一回公判

〈寄贈図書〉

『わが青春の自画像』
著者 大川芳夫 一、五〇〇円
『物語「にこよん」の詩』
著者 中村勝己
『顕彰碑―大沢野村小作争議』

顕彰碑建立委員会(富山県)